

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ10-1、	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I ）	
	Pubmed ID	15713139	
	医中誌 ID		
	雑誌名	BJOG	
	雑誌 ID		
	巻	112	
	号		
	ページ	273-279	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2005	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Shepherd V	Clatterbridge Center for Oncology
その他著者 1		Davidson EJ	同上
その他著者 2		Davies-Humphreys J	同上
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	乳房外 Paget 病の文献的レビュー
	データソース	Medline
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	Key words(Extramammary Paget's disease, vulva, Paget's)
	主な結果	乳房外 Paget 病は外陰部癌の 3～5%で、稀な疾患。診断には生検が重要。20～30%に内臓悪性腫瘍の合併あり。手術が治療の第 1 選択であったが、再発率は 40%と高く、術後も長期に亘る経過観察が必要であった。手術のほかには、放射線治療、外用または全身的化学療法、レーザー治療、光力学的治療、Mohs'顕微鏡手術などが試行されていた。
	結論	各種治療法の有用性を検証するためには、多施設共同の前向き無作為振り分け試験が必要である。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	高田 実
レビューワーコメント	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） ごく最近までの文献を網羅した乳房外 Paget 病に関する最も優れた総説。参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低い。本症の報告が少ないことを勘案すると、現時点ではシステマティック・レビューに準ずるものと評価した。